

隔離の闇を照らす

歌の記憶

歌が伝えるのは

あなたが生きた証

夜明け前のうた

消された沖縄の障害者



監督・撮影・編集:原 義和 制作:高橋年男 山田圭吾 糸洲のぶ子 ナレーション:宮城さつき 音楽:白川ミナ 創作舞踊:Danzatakara.
製作協力:沖縄県精神保健福祉会連合会 沖縄YWCA 製作:障害者映像文化研究所 イメージ・サテライト プロデューサー:中橋真紀人 配給:新日本映画社 [2020 / 日本 / DCP / カラー / 5.1ch / 97分] ©2020 原 義和

UDC 本作は「UDCast®」(バリアフリー字幕/音声ガイド)に対応しています。

文化庁文化芸術振興費補助金(映画創造活動支援事業) 独立行政法人日本芸術文化振興会

1960年代の沖縄 障害者が隔離された現場の写真
入手したジャーナリストが明らかにする日本国家の罪

犠牲の歴史と向き合うこと
孤独と絶望に思いをめぐらせること
傷つけられた尊厳の回復を祈ること
死者の歌に耳を傾けること
消された名前を刻むこと



知られざる沖縄の犠牲

「一部の犠牲はやむを得ない」…これは日本国家の根幹にあり続けている考え方です。戦後、サンフランシスコ条約によって沖縄を日本から切り離したことは、その象徴と言えるかもしれません。その後の米軍基地の沖縄への集中も同じです。その考えは、地域社会においても、日本の隅々まで貫かれてきました。

私宅監置…1900年制定の法律に基づき、精神障害者を小屋などに隔離した、かつての制度です。精神障害者を犠牲にし、地域社会の安寧を保とうとしてきたのが、日本です。1950年に日本本土では禁止になったこの制度は、沖縄ではその後も残りました。やむを得ない犠牲として沖縄を見限った、日本国家の考えそのものと言えます。隔離の犠牲者は人生を奪われ、尊厳を深く傷つけられましたが、公的な調査や検証は行われていません。「家族の恥」「地域の恥」、ひいては「日本の恥」として闇に葬られてきた歴史です。本当に恥ずべきは、隠し続けることではないでしょうか。

この映画は、小さくされ、犠牲を強いられたごく一部の人びとを、あえて見つめる映画です。闇の歴史と向き合うことで、初めて開くことのできる光の地平があると信じるからです。



夜明け前のうた ～消された沖縄の障害者

監督・撮影・編集：原 義和

制作：高橋年男 山田圭吾 糸洲のぶ子 ナレーション：宮城さつき

音楽：白川ミナ 創作舞踊：Danzatakara.

製作協力：沖縄県精神保健福祉社会連合会 沖縄YWCA 製作：障害者映像文化研究所 イメージ・サテライト
プロデューサー：中橋真紀人 配給：新日本映画社 [2020/日本/DCP/カラー/5.1ch/97分] ©2020 原義和

yoake-uta.com

監督：原 義和 (フリー-TVディレクター) Profile

1969年愛知県名古屋生まれ。2005年より沖縄を生活拠点にドキュメンタリー番組の企画制作を行う。東日本大震災の後は福島にも通って取材し、Eテレ「福島をずっと見ているTV」などにディレクターとして参加。

主な制作番組は「戦場のうた～元“慰安婦”の胸痛む現実と歴史」(2013年琉球放送/2014年日本民間放送連盟賞テレビ報道番組最優秀賞)、「インドネシアの戦時性暴力」(2015年7月TBS報道特集・第53回ギャラクシー賞奨励賞)、「Born Again～画家 正子・R・サマーズの人生」(2016年琉球放送/第54回ギャラクシー賞優秀賞)、「消された精神障害者」(2018年Eテレ ハートネットTV/貧困ジャーナリズム賞2018)など。著書に「消された精神障害者」(高文研)、編書に「画家 正子・R・サマーズの生涯」(高文研)。

「夜明け前のうた」上映会&プレミアムトーク

2023

4.27 (木) ~ 28 (金)

昼の部 14:00~16:10 (開場 13:00)

夜の部 18:30~20:40 (開場 17:30)

協力金：1,000円

定員：各回 300名

レイボックホール (市民会館おおみや)・小ホール

*上映時間：1時間 37分 (各回映画上映後、原義和監督他、トークがあります)

お問い合わせ
チケット購入



*Google フォームを開けない場合は、kenkyu@yadokarinosato.org 宛にお申込みください。

主催：公益社団法人やどかりの里 (さいたま市見沼区中川 562)

後援：きょうされん埼玉支部、埼玉県障害者協議会、埼玉県精神障害者家族会連合会、埼玉県精神障害者社会福祉事業所運営協議会、埼玉県精神障害者団体連合会ポプリ、埼玉県セルフセンター協議会、さいたま市精神障害者家族会連絡会、さいたま市精神障がい者当事者会ウィーズ、さいたまユースサポートネット、認知症の人と家族の会埼玉県支部 (五十音順)

趣意書

映画「夜明け前のうた―消された沖縄の障害者」

上映会開催について

日本にはかつて「私宅監置」という、精神障害等のある人を住居の一画に鍵のかかる小屋などを設置し、家族の責任で社会から隔離する制度がありました。戦後 1950 年に精神衛生法の制定とともに私宅監置の制度は廃止されましたが、米軍に占領された沖縄では 1972 年まで私宅監置が行われていました。

沖縄で私宅監置被害者たちの写真と出会った原監督は、隔離され続けた被害者の声に耳を傾け、社会から消されようとしている人たちの姿をこの映画でもう一度社会に伝えたいと考えました。もっとも声の上げづらい人たちの声を社会に届けたいという原監督の思いに共感し、上映会を開催することにしました。

「私宅監置」の制度はなくなりました。しかし、鍵のかかる精神科病棟の中で生き続ける人たちがいます。それは精神医療・保健福祉の構造的な問題が解決されないままだからです。不都合な真実を忘れてはいけない、この事実から目を背けてはいけない、この映画を通じて、私たちの中にある差別意識や優生思想に自覚的になり、精神医療に残されている隔離・収容政策がいかに人権を踏みにじっているのか、考える機会にしたいと思いました。

この映画は 2021 年に文化庁の映画賞を受賞しました。しかし、映画に登場する私宅監置被害者の家族からの苦情で、文化庁は記念上映を取りやめました。上映中止では真の問題解決にはつながりません。文化庁は苦情の背景に何があるのか、話し合い、共に考えることこそ重要だったのではないのでしょうか。精神障害のある人をめぐる貧しい社会制度こそが家族に重たい荷物を負わせ続けているという現状も変えなくてはなりません。

私たちは私宅監置の被害を過去のことにせず、精神医療の構造的問題を解決する端緒にしたいと考えています。国連の障害者権利委員会は、日本の精神医療を抜本的に変革するよう勧告しています。沖縄の私宅監置被害者の「うた」に耳を傾け、これからの日本の精神医療のあり方を考える機会にしたいと思っています。上映終了後にトークを行います。ぜひ多くの方に会場に足を運んでいただければと願っています。

上映予定

2023 年 4 月 27 日（木）

第 1 回 上映：14 時～

トーク：15 時 40 分～ 佐藤晃一さん（やどかりの里ピアサポーター）×原義和さん
（約 30 分）

第 2 回 上映：18 時 30 分～

トーク：20 時 10 分～ （調整中）×原義和さん

2023 年 4 月 28 日（金）

第 1 回 上映 14 時～

トーク：15 時 40 分～ 岡田久実子さん（全国精神保健福祉会連合会）×原義和さん

第 2 回 上映：18 時 30 分～

トーク：20 時 10 分～ 芝田英昭さん（立教大学）×原義和さん

2022 年 12 月

公益社団法人やどかりの里「夜明け前のうた」上映実行委員会